

## 大幡川 四十八滝沢

山川

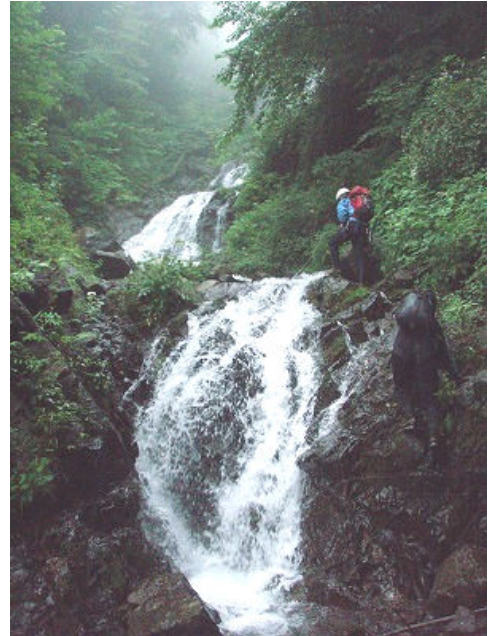
【日時】 2007年7月21日

【メンバー】 木下（L）、鈴木、山川

なかなか明けない梅雨の雲行きに二転三転右往左往の週末が続く。今週も雨雲を避けて中央アルプス西横川から四十八滝沢に転進となった。三ツ峠山につきあげるアイスのゲレンデとして有名などころらしい。都留ICをおりて登山口近くまであがっていくとグリーンロッジの看板がある。橋を渡った林道脇の駐車スペースに車をとめて前夜祭。

朝目覚めると森はうっすらと霧にけむり、なんとか天気も持ちそうだ。

がたがたの林道を、大幡川と登山道が交差する北登山口まで、鈴木さんの車である。登山道を歩いてすぐに支沢2本をこえと四十八滝沢に道が沿うようになる。痺れをきらして入渓したものの、堰堤が次々と現れてすぐに登山道に戻った。記録通りに初滝のところで入渓するのが無難なようだ。



台風と梅雨前線の影響で随分水量は増しているようだ。初滝から途切れることなく滝が続く。別名千段の滝沢というのもうなずける。森は分厚い霧に包まれて、静寂を割るように滝が現れる。ありふれた言い様だが水墨画のようだ。小粒だが直登できるのが嬉しい。初滝・3段の滝・七福の滝など名前があるのも楽しい。昔こんな連瀑を前にして、鈴木さんの友人が言ったそうだ。『見事な滝廉太郎だっぺ。』（茨城弁で。）…普段上司の駄洒落をきかなかったことにしがちな自分だが、これは、郷土の偉人への尊敬と誇り、そして見事な滝の連なりに対する賞賛を、短い台詞に託した絶妙なコメントだと思った。しかし後日鈴木さんの調べで、滝廉太郎は東京都港区出身で実家も大分県と判明した。ただの駄洒落だったのか〜と脱力したのだったが、しかし四十八滝沢は確かに滝**連**太郎な沢だった。

それにしても水が冷たい。段々手足の感覚がなくなってくるに従い、佳境の連瀑郡はシャワークライミングの様相を帯びてくる。頭からかぶるとあまりの冷たさに息がとま

りそうになる。なんとかして水に触れまいと往生際悪くラインを考えるが結局ずぶぬれになってしまった。素直に流芯通しにいくと楽である。

沢幅が狭まってくるとパタッと水が地下にもぐり、楽しい滝登りもあっという間に終了。つめのガラガラルンゼには気をつかったが、藪もなく稜線にでて、5分で三つ峠山頂に立った。山頂で憩うハイカーと歓談しながらゆっくりお昼ごはん。帰りは鉄塔の先からうるい畑の中を横切り、登山道を車まで戻った。

『初心者をつれて暑い日にのんびりくるのに最適だな。』『三つ峠の岩登りとセットにしてもおもしろいかも。』と鈴木さん木下さん。

大月駅前の銭湯『よしの屋』で汗を流し、すぐそばの中華屋さんで再び汗をかき、山荘へいく鈴木さんと別れる。木下さんとホリデー快速であっという間に帰京した。

【グレード】1級

【行程】7/21 北登山口 (8:00) ~三つ峠山頂 (11:30-12:00) ~北登山口 (14:00)

【地形図】河口湖東部

